

# Global



グローバル

OM船

P4-5

ドゥロスホープ号  
での宣教を通して

## 宣教船と地方宣教

徳島県

P3

四国への導き

宮城県

P6-7

イエス様の  
弟子作り

OM日本 Update  
アップデイト  
生き生きとした  
コミュニティが  
形作られるため



ドゥロス  
ホープ号  
Vision Trip 2025  
こっちから  
行こう!



2026年  
短期宣教  
募集要項



OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです



船越 信哉 OM日本総主事

# 生き生きとしたコミュニティが作られるために

主が私たちOMに与えてくださっている使命があります。

**「最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形作られる」**

OM日本では毎年リトリートを行っており、2025年度は8月下旬、福島県郡山市青少年会館で行われました。「ビジョンの共有」「チームの一致」「霊的リフレッシュ」。普段は各地域で仕えている宣教師たちが一堂に会し、たくさん笑い、涙した3泊4日。主のビジョンを受け取り、再び主の召された場所に遣わされていきました。

「私は、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かう。」

イスラエルの前に、大きな問題がありました。ペリシテとの戦い。巨人ゴリヤテの存在。どうすれば良いのか？戦いの訓練を受けたはずのイスラエルの兵士たちは気落ちし、戦いの場から逃げ出しました。

「Who am I? 私は何者か？」

巨人ゴリヤテを目の前に、イスラエル兵はこの問いを投げかけます。「Who

am I? 私は何者か？」自分に目を向けた兵士たち。ゴリヤテと比べて、自分はいかに小さすぎる、弱すぎる。この問題を乗り越えることはできない。

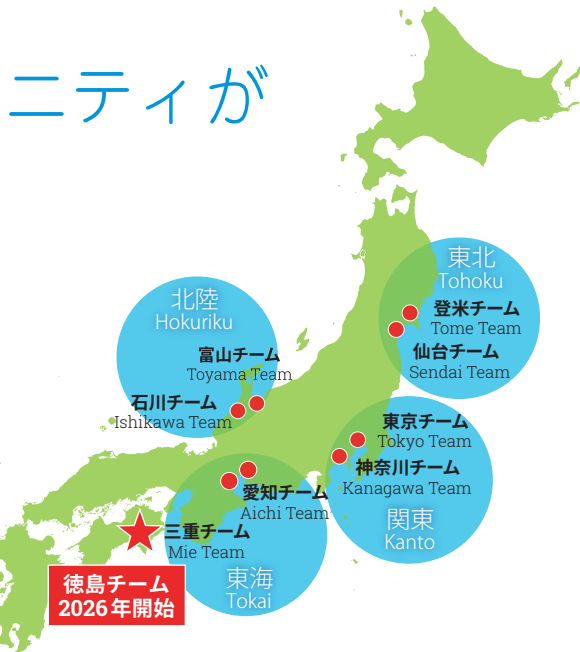
父から使いを頼まれ、戦場にやって来た少年ダビデ。8人兄弟の末っ子。そのダビデが、最強戦士ゴリヤテの前に進み出ました。ダビデはなぜ、そんな勇気ある行動がとれたのでしょうか？彼は、兵士たちとは違う問いを投げかけたからです。

「Who am I with? 私とともにおられるのは誰か？」

「with」が付くだけで、その意味が全く変わります。「私とともにおられるのは誰か？」

ダビデは知っていました。「私は小さくて弱い。でも、私とともにおられるお方は違う。」ダビデはゴリヤテの前に進み出て告白しました。「私は、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かう。」

私たちの人生にも、問題が起こります。毎日の小さな問題。そして時に、大きな問題。あまりにも大きすぎて、押しつぶされそうになります。しかし、あなたは決して、ひとりではありません。あなたとともにおられるお方がいます。



イエス・キリストです。2000年前、人となってこの地上に来てくださったイエス・キリスト。最も大きな問題であった私の「罪」を背負い、十字架にかかって身代わりに死んでくださったイエス・キリスト。墓に葬られ、三日目によみがえられた、万軍の主、イエス・キリスト！事実、あなたは命をかけて愛されています。その証拠が、イエス・キリストの十字架にあります。

私たちOM日本は、日本を愛し、日本の人々にこの変わらない福音を伝えます。日本に「イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティ」が形作られるために。



- ① リトリートでは、楽しい時を過ごします。
- ② 2026年より始まる四国チームの派遣と、神戸ビジネス宣教師の祈り。
- ③ 全国5地方、9チームのリーダーたち。
- ④ OM日本には現在60名ほどの宣教師が国内で活動している。



# 徳島県



ジョアナ・シュツ OM日本アート・ミニストリー、四国開拓チーム



アメリカ人OM宣教師のジョアナさんはこれまで宮城県仙台市において、OMアート・ミニストリーのカタリストとして活発に活動してきました。しかし今は、ジョアナ宣教師を東北の大都市圏から四国へと導かれました。

## 四国への導き

2年前、OM日本総主事の船越さんが新しいチームを立ち上げたいという考えを最初に話してくれたとき、私はカーワイと一緒にその会話に参加していました（カーワイさんの証しはGlobal第92号を参照）。

「行ってみたいと思いませんか?」と聞かれたとき、私の心の奥で神様が何かを動かしておられるのを感じました。しかし、**人間的な心と考えは「いいえ」と言っていました。宣教師の娘としてアフリカで育った私は、仙台での生活とミニストリーをとっても気に入っていたし、引っ越しの面倒も避けたかったのです。愛する教会、地域、そして働きがそこにありました。**

その後2年間、私はカーワイと共に、彼女の召しに応じて一緒に行く人を神様が備えてくださるよう祈りました。しかし心の中では、ずっと神様に「いいえ」と言い続けていました。

そんな私の心が変わったのは、昨年11月の一時帰国中のことでした。日常の忙しさや働きから少し離れ、主の前で静かに祈る時間を持つことができたのです。

そのきっかけは、宣教師である母と

のちょっとおかしくも目を覚まさせるような会話でした。私がこの悩みを話すと、母は開口一番にこう言いました。

「ジョアナ、あなたはバカね!」

普段はそんな言い方をしない母の言葉に、私はハッとしました。彼女は、**「引っ越しなんてただの後片付けよ。神様はもっと大きなことにあなたを呼んでいるのよ」**と言いました。その言葉が私の目を開かせ、私は心を神様に向け、真剣に聞き始めました。

その少し後、カーワイが四国に関する記事をいくつか送ってくれました。最初の記事は地元のアートスポットについてで、アートを通して宣教し、地域のアーティストと関わることに情熱を持つ私の心はすぐに惹きつけられました。

さらに、彼女が見せてくれたメールには、私のことを全く知らない牧師が**「四国にアートのミニストリーが生まれることを願っています」**と書いていたのです。加えて、四国の高齢化の現状についても教えてくれました。それもまた、私が深く心を動かされる働きの分野でした。

その帰国期間の終わりには、神様が私に四国を真剣に考える多くの理由を

与えてくださいました。そして日本に戻ったら、まず四国へビジョントリップに行くことを決めました。

私は神様に「空に文字を書くような劇的なサインを見せてください」と祈りました。しかし、神様はそれ以上に確かなものをくださいました。

私たちが四国各地をまわり、牧師たちやつながりのある人々を訪ねていく中で、私は**圧倒的な歓迎を感じました**。特に、ある牧師と笑いながら話していたとき、まるで家族のような親しさを感じ、忘れられない時間となりました。

その旅の間、「違和感がない」という言葉を学びました。それがまさに私の感じたことでした。**居心地が良く、まるで最初からそこに属しているように思えたのです**。その瞬間、私はもう神様の召しを否定できなくて「はい、主よ。私は四国へ行きます」と答えました。

これから始まる新しい冒険——四国で主に仕えることを、心から楽しみにしています。



3



3

- ① 直島にある有名なパンプキン。瀬戸内海はアートで溢れている。
- ② 脇町キリスト教会にて。
- ③ ④ 日本基督教団香川直島にて。この教会は、直島というアートの島の雰囲気と調和するよう、地元の建築家によって設計された。
- ③カーワイさんが立っている場所は「森」をイメージして設計された祈りの部屋。
- ④ 展示されているのは世界各国の聖書。



# ドゥロスホープ号での 宣教を通して

OM船

花岡知恵香 宮崎クリスチャンコミュニティチャーチ



2023年9月から2025年9月までの2年間、宣教船ドゥロスホープ号で奉仕させていただきました。この2年間、神様は多くの祝福とチャレンジを与えてくださいました。福音を語るだけでなく、どんな形でも神様の愛を分かち合うことも宣教なのだ気付かされました。

Doulos Hope号は2023年に働きが開始された、より地域に密着した、**アジア巡回専用の宣教船**です。2年間でアジア8か国(韓国を含む)・19港(リターンポートを含めない)を訪れ、各地で沢山の証が生まれました。

1年目は船内の書店で奉仕しました。1日1000~3000人が訪れ、証や聖書、本、来場者との交流を通して神様のことを伝える機会が与えられました。乗船して間もなく、**船全体のエアコンが故障し、船内は40度を超え**、その2ヶ月間はイベントホールでみんなで雑魚寝生活をしたり(そのホールは独立したエアコンが奇跡的に設置されていたため)、Doulos Hope号の書店は室外の屋上(屋根はありません)にあるため、書店にはエアコンがなく、1年中真夏の東南アジアでの奉仕は体力的に大変でしたが、神様の恵みによって健康が守られたことも感謝でした。

船上イベントを通して、また**地元教会や学校、スラム街、山村**など、その他必要のある場所に行き、**子どもイベントや視力検査、食料配布、路傍伝道、大学伝道**など、さまざまな形で神様の愛を届けました。

2年目は**事前準備チーム**として、船が港に着く**数ヶ月前に現地**に行き、**宣教の計画を立て、教会や港、政府、学校、地域団体との連携**を通して船の**受け入れ準備奉仕**をしました。受け入れ準備をする中で、神様に100%信頼すること、絶対に不可能と思える状況でも、何をどうしたらいいかわからない状況でも神様はすべてを可能にされる方であり、宣教は神様の御手の中にあること、神様の計画になることを体験しました。

韓国において、現地の受け入れ準備中、港の確保が難しく、計画が何度も変更になり、最終的に**韓国入港は実現しませんでした**が(来韓予定は数年後に延長)、そこで出会った一人の教会の長老さんを通して神様は私たちチームに大きな祝福を下さいました。その長老さんは私たちに快く助け支えてくださいました。とても困難な状況に神様は必要な出会いと助け手を与えてくださっていました。互いに祈り合い、励まし合い、支え合うチームを与え、そして宣教船がその国に来る

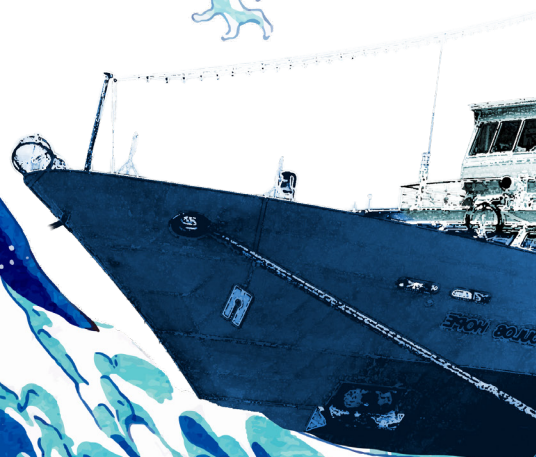
ことはできなくても、神様は出会った人々に神様の愛と希望を伝える機会を下さいました。チームに与えられていたイザヤ52:7の御言葉のように、神様はちゃんと目的をもって私たちを遣わされておられました。

ある国での受け入れ奉仕も特別な体験でした。その国では多くの制限がありましたが、祈りの中であらゆる道が開かれ、**監視がある中でも、書店で多くの聖書が購入されたこと、滞在期間中3万人を超える人々が船を訪れ**、様々な方法を通して神様の愛を表すことができ、現地教会も大きく励まされました。

乗船した最初の頃にイザヤ46:10

『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』

の御言葉が与えられました。この2年間を振り返るとその御言葉の通り、すべての働きは主のご計画の中で導かれました。神様の恵みにより、そして皆さんのお祈りと支えにより、この2年間奉仕を全うすることができました。これからは、**日本宣教に携わっていきたくて**祈っています。どのように日本宣教に携わるか祈っている最中ですので、引き続きお祈りください。2年間、本当にありがとうございました。





ビジョントリップ 2025



# こっちから行こう!



下崎香世 OM 日本事務局・ビジョントリップ・コーディネーター

**2025年7月、OM日本として初めて、アジア巡回用のOM船ドゥロスホープ号に約1週間乗船するビジョントリップを持ちました。**

2023年から始まったアジア巡回用の船ドゥロスホープ号。2025年には日本への寄港が予定されていましたが、さまざまな事情により実現できませんでした。しかし、「船が来れないなら、日本から船へ行こう!」という思いのもと、新たな試みとしてビジョントリップの計画が立てられました。

そして2025年7月、OM日本として初めて、マレーシアのラブアン島に停泊していたドゥロスホープ号に約1週間乗船してきました。

## 船上での活動内容

乗船翌日にはオリエンテーションが行われ、乗組員の案内で船内の各施設を見学しました。その後、実際の働きを体験する奉仕の時間があり、以下の部署で奉仕に参加しました。

- **イベント部門:** 船内イベントの会場設営および誘導支援
- **本屋 (Book Fair) 部門:** 受付、レジ補助、来場者案内、人数カウント
- **ホテルサービス部門:** 廊下の清掃、整理整頓
- **厨房 (Galley) 部門:** 食器洗い、厨房清掃、食事後の片付け

また、本屋では日本の文化を紹介するために、日本柄のアクセサリを配布したり、来場者の名前を日本語で書いた団扇をプレゼントしました。現地の方々にも大変喜ばれ、良い交流となりました。

## 礼拝と祈りの時

船内では、乗組員たちと共に礼拝や祈りの時を持ちました。特に祈祷会では、日本のために祈る時間が設けられ、30か国以上から集まった乗組員たちが心を合わせて熱心に祈ってくれました。多国籍の仲間たちが共に賛美し祈る光景は、まるで天国の礼拝を先取りしているようで、心に深く残るものでした。

## 体験を通して

今回のビジョントリップを通して、実際に船での生活と宣教の現場を体験することができました。その中で、参加者一人ひとりが世界宣教に対する理解と視野を大きく広げることができ、新たな情熱を与えられる貴重な機会となりました。これからもドゥロスホープ号が多くの人々に希望を届ける器として用いられるよう、皆さまのお祈りを心からお願いいたします。

## ビジョントリップ参加者: 中山緑さん

一言で言うと、全てが最高でした。世界宣教船の働きを短期間ですが、一緒に経験することができました。話で聞いただけの遠い存在だった船がぐっと身近になりました。普通には出会えない国の友達ができ、彼らの証を聞き、宣教に対する情熱を感じる事ができました。福音を直接語ることが難しい状況でも神様は道を開いて下さり、いろいろな方法で船の働きが用いられていることを目の前で見ました。このツアーを通して、神様に不可能はない! 道を開かれるのも、用いてくださるのも神様だ! と改めて教えられました。

## ビジョントリップ参加者: 塚越かおりさん

船内のどの部署も大変さはありませんでしたが、私が特に大変だと感じたのは、「お皿洗い部署」でした。宣教船の中でも、現地の人達と関わる事が無いその部署のクルー達はとても真面目に働いていました。宣教に必要なことは、華やかな目立つ奉仕ばかりではなく、クルー達を支える食事の奉仕、準備、片付け等のサポートがあってこそだと改めて神様から教えられました。

私のように正社員で、長期休みが取れない方、一歩踏み出せない方にビジョントリップは絶対おすすめです!





1



スミスドルフ(黒田)契子

# イエス様の弟子作り



登米コミュニティチャーチ  
TOME COMMUNITY CHURCH

2011年の東日本大震災がきっかけで始まった宮城県登米市でのミニストリーは、人を教会に集めることではなく、信じた人々が自らの家で新しい教会を始められるように支援すること。



2011年の東日本大震災後、OM日本は石川県から宮城県の本吉町・南三陸町・石巻市へと、約1年半にわたり被災地支援を行いました。

2013年9月、私たち家族5人と女性宣教師1人がチームとして宮城県登米市に移住し、新たな働きを始めました。

移住当初は、目標を立てず、神様の導きに従う形でスタートしました。最初の数年は仮設住宅の訪問が中心で、教会や団体と協力してお茶会、イベント、地域支援などを行い、地域とのつながりを築きました。やがて私たちの古民家を開放してハウスパーティーを開くようになり、海外ボランティアとのBBQやクリスマス会など、多くの人で賑わいました。

しかし当初は、福音を直接語る機会は少なく、霊的に渴きを感じる人もあまり見られませんでした。私たちは「この地の霊的

な空気を変えてください」と神に祈り続けました。

やがて「教会にはまだ行けないけれど、神様のことを知りたい」という人々が現れ、彼らと共にスマールグループで**発見型聖書の学び(DBS)**を始めました。聖書を通して神を知り、実践する中で、参加者の心に明らかな変化が見られるようになりました。

2019年、初めての受洗者が与えられました。登米市は9つの町からなり、人口約7万1千人ですが、**信徒は全市で40人に満たない未伝地**です。私たちは教会のない南方町の**自宅を開放し、「リビングルーム教会」として家の教会**を始めました。目標は人を教会に集めることではなく、**信じた人々が自らの家で新しい教会**を始められるように支援することです。

6年間の家の教会の中で、「もっと多くの人にイエス様を伝えるには」と祈りつつ、新たな拠点の必要を感じ始めました。宣

教師たちは英会話教室、デイケア、子ども食堂、若者支援など地域に根差した働きを続けていましたが、2024年夏、近所のお米屋さんが廃業することとなり、建物を譲ってもらえるという話がありました。これを神の導きと確信し、破格の値段で購入しました。リフォーム費用も、海外の教会が祈りと献金で全て備えていただきました。

2025年7月、「登米コミュニティチャーチ(TCC)」として**新しい建物**が完成。9月6日の献堂式には、登米市や東北各地、関西からも多くの仲間が集まり、祝福の時となりました。

TCCのメンバーはまだ少数ですが、イエス様の愛が人々の心を変え、家庭や地域に広がることを信じています。私たちはこれからも**弟子として、希望と命を届ける共同体**を築いていきます。



2



3



4



5

- ① 津波によりたくさんの人命が失われた海で、新しい命を生む洗礼式。
- ②③ 我が家のリビングを開放した「リビングルーム教会」の様子。5年以上も続いた。
- ④⑤ 仮設住宅での「おちゃっこ」活動の様子。津波被災者の心のケア活動。
- ⑥ 大工技術を身につけた長男と、ザンビア人OM宣教師。新しい教会堂の改装工事には必要な働き手を主が与えてくださった。

6



6



# TENT・アート宣教プログラム in 仙台

2025年、宮城県仙台市で行われた6ヶ月のアート宣教トレーニング「TENT」には、韓国、香港、南アフリカから、計4人が参加し、個人、地域コミュニティ、そしてより広い社会という3つの領域に明確な変化がおこされました。

今年6か月間、仙台OMアートチームはTENTトレーニングプログラム—Training (訓練)、Enriching (豊かにする)、Navigating (導く)、Transforming (変える)の略—を開催しました。日本での宣教に関心を持つアーティストたちが、自分の賜物を日本の文化の中でどのように用いて福音を伝えるかを学ぶことを目的としています。

TENTプログラムは「神の物語 (God's Story)」「あなたの物語 (Your Story)」「1万の物語 (10,000 Stories)」の3コースから成り、参加者はチームでの生活、日本語クラス、地元のアート体験を通して、文化理解を深めました。この6か月を通して、個人、地域コミュニティ、そしてより広い社会という3つの領域に明確な変化が見られました。

## 1. 個人への影響

訓練生は20代から40代まで幅広く、それ

ぞれが異なる課題に取り組みました。ある参加者は初めての一人暮らしを通して自立を学び、別の人は日本への苦い思い出を神に癒され、アートで福音を語る情熱を得ました。また、日本文化の象徴に新しい意味を見出し、作品に取り入れることで日本人に新しい気づきを与えた人もいました。さらに、日本の強い共同体意識を通して教会の交わりの美しさを理解した人もいました。皆がそれぞれの方法で成長しました。

## 2. 地元クリスチャンアーティストへの影響

参加者は「仙台クリスチャンアートフェスティバル」の企画を手伝い、「視 (インサイト/Insight)」というテーマを提案しました。「神は多面的であり、さまざまな特質を持つ」という意味のテーマです。チャレンジはありましたが、多くの日本人アーティストが新しい創作の探求へと導かれました。たとえば書道家の一人は、「神」と「愛」

ジョアナ・シュツ  
OM日本アート・  
ミニストリー・カタリスト



という文字を3Dアートに融合させ、角度によって異なる文字が浮かぶ作品を制作しました。来場者は皆その作品に感嘆し、この発想はTENT参加者から生まれたものでした。

## 3. 地域社会への影響

TENTプログラムは仙台の地域社会にも広がりました。参加者の日本文化への関心が、多くの地元アーティストとの出会いにつながったのです。版画家との交流では福音を分かち合う機会が生まれ、金継ぎの先生には3か月教わり、その後、作品展示の場を与えられました。展示会では来場者や先生自身にもアートを通して福音を伝えることができました。神はこの6ヶ月のプログラムを通して、参加者個人だけでなく、仙台の地域社会全体にも働かれました。神に感謝します!

### 広告欄

郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はOM日本事務局 info.jp@om.org までご連絡を



さあ、みんなで広めよう。みことばを。  
神のことばはますます広まり、増えていった。(新約聖書より)

## コンサイスバイブル® アプリ

聖書を読んだことのない方が、聖書の概要と中心テーマを理解出来るように読みやすくまとめられた無料アプリです。ノンクリスチャンのご家族やご友人にも、聖書の全体像をつかんでいただけるので、ディスカッションも始めやすく、自信をもってお勧めできるアプリです。  
https://concise.bible/ja をご参照ください。右下のQRコードからもアクセスできます。

一般社団法人 I.G Japan

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1-2-15 仙台ソララプラザ3F

お問い合わせ: ja@concise.bible

WEB サイト: www.japaninitiative.global

コンサイスバイブル® は Initiative Global (I.G) の登録商標です。

引用聖句は I.G が翻訳し、著作権を有しています。

翻訳は聖書全体ではなく一部 (1,798 節) になります。

7





# STM短期宣教募集要項

## ルーマニア One Church, One Village, One Life Transformed

📍 ルーマニア／ブルガリア  
 📅 2026年7月13日～20日  
 応募締切 2026年4月末  
 💰 594 EUR  
 ☑️ 18-70歳 健康であること

1週間

- ❶ 隣国ブルガリアの村々にある既存の教会を一つにまとめ、強め、イエス・キリストの希望と愛を分かち合い、地域社会への働きかけを行い、新しい信者を弟子として育てることによって、より力強く、生き生きとした持続可能な信仰共同体を形成すること。
- ❷ 既存の教会がより多くの人々に手を差し伸べ、信仰を深め、隣国ブルガリアの村々に、自立し繁栄するイエスに従うコミュニティが築かれるよう、教会を整え、サポートすること。

## STEP OUT

📍 台湾  
 📅 2026年8月1日～10日  
 応募締切 2026年3月末  
 📞 事務局まで連絡  
 ☑️ 18-70歳 会話は基本英語

10日間

- ❶ 福音を伝えたい——でも「どう始めればいいかわからない」。そんなあなたが、経験の有無に関わらず福音宣教への第一歩を踏み出せるようサポートします。
- ❷ プログラム内容：
  - ・バイリンガルで行われる宣教準備カンファレンス
  - ・経験豊富なOMリーダーによる弟子訓練と霊的成長の学び
  - ・多様な文化の中で宣教を体験し、実践的に学ぶ機会
  - ・アジア各地での短期宣教に参加し、現地での働きを体験する
  - ・実践を通して信仰を深め、異文化の中で神の愛を伝える力を養う

上記のリストはごく一部です。OMではこのほかに、短期宣教の要項が常時200件、長中期宣教師の募集は300件あります。主があなたに与えられた導きを共に探すお手伝いをさせていただきます。国名を明記してOM事務局まで、ぜひご連絡ください！

## STEP：ロゴスホープ号に3ヶ月乗船：

3ヶ月

📍 OM船  
 📅 2026年6月30日～10月8日 もしくは  
 2026年10月1日～2027年1月9日  
 応募締切 出発日の5ヶ月前  
 💰 US\$ 2586-2874  
 ☑️ 18-60歳 (日常会話の英語と健康が必須)

- ❶ STEP (Short Term Exposure Programme)とは、OM宣教船への3ヶ月の乗船を体験できるプログラムです。さまざまな国の人々と共に生活し働くことで、異文化でのクリスチャンの働きに必要なことを直に経験することができます。奉仕の心、学ぶ姿勢、柔軟性を持ってぜひご参加ください！一生に一度の素晴らしい経験になります。

## アメリカでOM船の書庫での働きと英会話習得

📍 アメリカ  
 📅 毎月随時受付 3ヶ月現地滞在  
 応募締切 出発日の3ヶ月前  
 💰 US\$ 1724  
 ☑️ 18-60歳 (日常会話の英語と健康が必須)

随時募集

- ❶ 世界宣教/海外宣教において、アウトリーチにも、チームとの会話にも英語能力は必須です。アメリカ滞在中は、半日間を書庫でボランティア作業、そしてもう半日で英会話の授業を受けます。

## REACH：台湾で弟子訓練

5ヶ月

📍 台湾  
 📅 毎年9月スタート  
 応募締切 毎年4月末  
 💰 US\$ 507  
 ☑️ 18-50歳 基本的な英会話能力必要

- ❶ REACHは、質の高い実践的な訓練を通して、各文化に適応した方法で宣教できるよう導くプログラムです。主の弟子として試練を乗り越える力を養い、福音を伝えられていない人々に手を差し伸べ、アジア宣教の担い手となっていくことを目指します。

- ❷ 活動内容：
  - ・イエスの弟子として生きる力と実践的なスキルを身につける
  - ・異文化の中で、人々の心に響く形で福音を伝える方法を学ぶ
  - ・霊的にも、心身的にも成長し、神との歩みをさらに深める
  - ・自分の人生に対する神の召しを見だし、力強く踏み出す

8



## 献金方法

OM日本では、下記の3つの項目で献金を受けつけています。

1. 世界中でおこっている紛争、災害の支援 (ミャンマー地震、ウクライナ難民、トルコ地震を継続して受けつけています)
2. 日本から送り出されている宣教師へのサポート 献金 (宣教師の氏名を明記)
3. OM日本の事務局と活動資金

## サポート送金先：

【ゆうちょから】  
 郵便振替口座：02100-0-24998  
 口座名義人：OM日本事務局  
 【他行から】  
 店名：二一九 (ニーイチキョウ)  
 店番：219 当座預金  
 口座番号：0024998 (OM日本事務局)

送金の後は、こちらのQRよりフォームよりフォームを記入して送金内容を事務局までお知らせください。



その他のお問い合わせは事務局までご連絡ください。  
 電話：076-239-2830

## OM日本・OM Japan

🌐 [www.omjapan.org](http://www.omjapan.org) 📘 [fb.me/omjapan](https://fb.me/omjapan)  
 📧 [info.jp@om.org](mailto:info.jp@om.org) ☎️ +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)  
 📍 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394  
 OM日本会報紙 グローバル 第93号 2026年冬号



OM (Operation Mobilisation) は、世界約147カ国で3280名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、育成されていくことを目標としています。